

所内研修⑪ 講話「道徳の授業とは～道徳の授業とは何をどう教えるべきか～」

3月16日(水)、所内研修⑪として、酒屋祐定先生を講師に「道徳の授業とは～道徳の授業とは何をどう教えるべきか～」と題して講話を頂きました。

長い教員生活の中で蓄積した道徳に関する多くの資料を活用して、道徳の授業の在り方をお話しくださいました。

実際の授業展開を交えながらの120分の講話は、「道徳の授業は教えることではない、道徳的価値に気付かせることである」「人間は生き方で評価される。親は子育てで評価される。教師は子どもをどう変容させたかで評価される。教師は子どもの運命を変えるかもしれない授業をすることができるのだから、苦しいかもしれないが、やり甲斐があると同時に大きな責任を背負っていることを知る」と、教育の究極の目的は人格の形成で有り、教師としてのプロ意識と子どもへの愛情溢れる思いのこもった酒屋先生の優しさ溢れるメッセージでした。

【講話の内容】

- 1 人間は生き方で評価される。親は子育てで評価される。教師は子どもをどう変容させたかで評価される。
- 2 理想の教師像とは
 - (1) 「この世で最高の贈り物は、生き方を教えてあげることと無償の愛である・この世で最高の奉仕者は、いい子どもをつくる事である。」
 - (2) 1日だけ幸せになりたかったら、好きな人と食事でもしたらどうですか。1週間だけ幸せになりたかったら、旅行をしてみたいはいかがですか。1ヵ月だけ幸せになりたかったら、車を買ったらどうですか。1年だけ幸せになりたかったら、家を建ててみたらどうですか。一生幸せになりたかったら、教養を身に付けたらどうですか。」
 - (3) 教師としての力量、情熱、使命感、包容力、先見力、健康(精神・肉体)、そして、それらを包む豊かな人間性。
 - (4) 怒りは後で後悔と寂しさをまねくが、堪え忍ぶ心は後で喜びが湧いてくる。
 - (5) あなたは人間として、教師として自信を持ち合わせているか。
 - (6) 人を許せる人になれるか。
 - (7) 真の自由とは感情の奴隷にならないことである。
 - (8) あなたは感情の奴隷になっていませんか。
 - (9) あなたは自分の心の監視ができるか。
食欲、傲慢、侮り(軽蔑)、嫉妬、邪推、妬、誤解、怠惰、偽善偽り。
 - (10) 自分が常に見えるか。今日の自分を知らない人は明日の自分がわからない。
 - (11) 他人の人生を演じるには優しいが、己の人生を演じるのは難しい。筋書きのない1回きりのドラマだから。
- 3 煩悩を制することができるか
- 4 道義的責任「許す」「謝る」「感謝する」
- 5 豊かな人生を送るための自己変革
- 6 道徳授業過程の基本
 - ① 「ある日のできごと」(自作教材)
 - ② 「手紙」
- 7 人格の完成をめざす道徳教育



写真1 講師の酒屋祐定先生



写真2 所内研修の様子



写真3 講師を囲んで

【教育研究員の感想】（研修日誌から）

酒屋先生の講話はとても心温まる話でした。先生が人間性をとても大切にしているんだなと感じました。それが授業の基礎となり、道徳授業に大いに活かされていたのだと思います。良い世界になるのか、人を作っていく奉仕者としての教師の存在の意義も改めて知ることが出来ました。教師としての志を高くもってこれからの長い教師生活を送っていこうと思いました。そして「一生は一度、変わるのは何度も・・・」という言葉がとても頭に残りました。人として成長し続けられるように、変わるという勇気をもつ事の大切さを学びました。

そして道徳授業とは“教えることではない”気付かせることとおっしゃっていたのを聞いて、幼稚園教育の素晴らしさに改めて気付かされました。今日の講話内容を、私が知っている範囲で周りの方々に伝えていけたらなと思います。（国吉亜矢）

講師の酒屋祐定先生は、二十年前、私が補充教員しているとき兼城小学校の校長先生をしておられました。酒屋先生の人柄を表すエピソードがあります。学校の駐車場には、校長先生がいつも車を停めるスペースがあるのですが、そこは、木の実や鳥の糞が落ちてくる場所で、帰る頃には車が汚れてしまって大変な場所でした。どうしていつも、そんな所に車を停めるのか酒屋校長先生にお聞きすると「その場所に僕が車を停めれば、僕が難儀をすればすむでしょう」と答えたと言います。酒屋先生は、学校の職員の車が汚れて大変な目にあわずにすむように、ご自分があえてその場所に車を停めていたのです。この話を聞いて、なんてすばらしい人なんだろうと心が震えました。人格者である酒屋先生のお話をまた聞けるとあって、今日は大変嬉しかったです。心に残った言葉は「人間の成長は学ぶことを忘れたときに止まる」「教師は子どもをどう変容させたかで評価される」「道徳は教えることではない、価値に気づかせることである」です。今日は、いいお話がたくさん聞いて、心がぼかぼか温かくなりました。現場に戻ったら、酒屋先生から教えていただいたことを胸に、子どもたちをいいように変容させられるよう一生懸命がんばりたいと思います。最後に「今日という日が過ぎるということは、1日寿命が減っていくこと。1日1日を大切にしてください」という酒屋先生のお言葉をしっかりと胸に刻んで、これからもがんばります。（比嘉頼子）

「この世で最高の贈り物は、生き方を教えてあげることと無償の愛である。この世で最高の奉仕者は、いい子どもをつくる事である。」という言葉は教師の使命だと思いました。教師は勉強を教えるだけではなく、子どもを変容させてこそ教師だというのは、とても難しいかもしれませんが、日々意識していく必要があることだと思います。子どもを変容させるためには、一人一人を大切に、教師自身がどんな子どもを育てていきたいかということを確認する必要があります。教育の目的は、人格の完成とおっしゃっていましたが、人格の完成とはどういうことなのか、もっと考えていく必要があると思いました。

道徳の授業について今まで分かっていたつもりでしたが、なかなか授業がうまくいかないのは、道徳の授業は、教えるものではなく、当たり前として分かっている道徳的価値に資料を通して気づかせるということです。その認識が甘かったため表面的な読みとりの授業になっていたような気がしました。これから教材研究をする際には、当たりのことをどう気づかせていかに焦点を当てた授業をしていきたいと思います。

教師は最高の仕事だと本当にうれしそうに語っている姿を見て、いやな時もたくさんあるけど、これからも頑張っていこうという気持ちになりました。（久高友弥）

道徳について熱く語られる姿からはとても80歳とは思えないほど若々しく、趣味がクラシック音楽を聴くことで、英語教師をされていたことを知り、心が豊かだからだと納得させられました。先生のお話の中に、「人間の成長は学ぶことを止めたときにとまってしまう」というお言葉は、私が教師として人間としてモットーとしている「学びに終点なし」の考えと同じであること、教育に携わる私たち教師にとって大事なことだと感じました。また、道徳的価値は教えるのではなく、押しつけてもなく、児童に気づかせることが大事だということしつければ学級活動で行う事など理解しているようでしっかり把握できていなかった部分まで改めて学ぶことができました。学校現場に戻ったら、子ども達が大好きな道徳の時間を大切に、一緒に考え、気づくことができる授業づくりに取り組んでいきたいです。（富名腰由紀）

今日は、酒屋祐定先生からとても心あたまる「言葉」をたくさんいただきました。酒屋先生のこれまでの生き方や信念を表している言葉で元気をもらいました。その中でも私が印象にのこっているものとして「真の自由とは感情の奴隷にならない事である。あなたは常に自分の心（感情）を抑制できるか」です。普段の自分自身の行動を振り返ってみてもまだまだ、抑制できていない部分が多いと改めて感じました。4月から現場に戻ると、感情を抑制していく場面が多くなると思います。そのときは、酒屋先生の「言葉」を思い出してやっていきたいです。

また、道徳はおしえる事ではなく、道徳的価値に気づかせる事だとおっしゃっていました。教えたら国語とかわらないだから「気づかせる」その為に自作の教材を活用したり、新聞、テレビや曲を活用すると効果的に道徳的価値につながると感じました。また、酒屋先生の穏やかな話ぶりやなげない声かけがすごく素敵でした。私も素敵な話し方を身につけたいです。（波照間生子）